

## 福音を宣べ伝えるための項目 — 目次 —

- 1- 聖書を調べるがよい。
- 2- また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。
- 3- 聖書の預言はいずれも私的な解釈ではない。
- 4- この書の予言の言葉に書き加えたり取り除いたりしてはならない。
- 5- わたしの言うことを聞く人はさいわいである。それは、わたしを得る者は命(永遠の命)を得、主から恵みを得るからである。すべてわたしを憎む者は死を愛する者である。
- 6- この民は、口さきではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。
- 7- 世を友とするのは、神への敵対である。
- 8- 行いのない信仰はなんの役に立つか。
- 9- 死ぬ者について
- 10- すべての人が救われるわけではない。
- 11- 地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者は目をさますでしょう。
- 12- イエスは律法を持ってこられた。
- 13- 多くの教が存在する。だが、より知られているのは次の3つ：主によって使徒に残された教、人間の教、悪魔の教。
- 14- 偶像礼拝について
- 15- 悪魔の教はより人々を騙したものである。
- 16- 祈りについて。わたしをせつに求める者は、わたしに出会う。
- 17- おおいと長い髪について
- 18- 主イエスの聖餐
- 19- 神の平安の挨拶ときよい接吻(頬)による挨拶
- 20- きよい接吻による挨拶 その2
- 21- 真の洗礼式について
- 22- 幼な子にバプテスマを授けてはならない。
- 23- 真の洗礼式について その2
- 24- パウロは福音を宣べ伝えるためになにも請求しなかった。
- 25- 牧師について
- 26- 牧師について その2
- 27- 寡婦たちの家を食い倒す者は、もときびしいさばきを受けるであろう。
- 28- 福音を宣べ伝える者の報い(いのちの冠)
- 29- 十分の一税について
- 30- 十分の一税は無効となった。
- 31- 婦人たちは、教会で啓示を語ってはいけない。
- 32- 教会での長老・協力者たち
- 33- 結婚について
- 34- 行進
- 35- 主イエスの母マリアには、他の息子・娘もいた。
- 36- だれも天に上った者はない。主イエスほかには。
- 37- だれも聖者になれない。義人はかろうじて救われる。
- 38- 偶像について
- 39- 偶像について その2
- 40- 安息日について
- 41- 呪文を唱える者、魔法使い、かんなぎ、占いをする者、易者、卜者について
- 42- 酒について
- 43- 身を傷つけること(入れ墨)について
- 44- 家から家へと福音を宣べ伝える者たちについて

1 — あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについて、あかしをするものである。

ヨハネによる福音書 第5章39節

2 — また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。

ヨハネによる福音書 第8章32節

3 — 聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。なぜなら、預言は決して人間の意思から出たものではなく、人々が精霊に感じ、神によって語ったものだからである。

ペテロの第二の手紙 第1章20・21節

4 — 主の書をつまびらかにたずねて、これを読め。一つも欠けることはない。

イザヤ書 第34章16節 一つもその連れ合いを欠くものはない。主の口がこれを命じられたからである。

箴言 第8章34・35節 わたしの言うことを聞く人はさいわいである。それは、わたしを得る者は命(永遠の命)を得、主から恵みを得るからである。

5 — 主の律法は明白である。これは、星や海のかなたにあるのではない。あなたの近くに(聖書)はある。

申命記 第30章11～16節

6 — 開かれた聖書は、人々に語りかける主の言葉である。

イザヤ書 第1章19・20節 これは主がその口で語られたことである。

7 — この書の予言の言葉に書き加えたり取り除いたりしてはならない。

ヨハネの黙示録 第22章18・19節

8 — おおよそ人を頼みとし肉なるものを自分の腕とし、その心が主を離れている人は、のろわれる。

エレミヤ書 第17章5～8節 人々を創造された主より自身の知恵に頼っているからである。

9 — 主の戒めを一つも犯してはならない。

マタイによる福音書 第5章17～20節 律法の一点、一画もすたることはなく、ことごとく全うされるのである。

10 — なぜなら、律法をことごとく守ったとしても、その一つの点にでも落ち度があれば、全体を犯したことになるからである。

ヤコブの手紙 第2章10節

11 — 民は、聖書にない慣習(伝統)や祝賀を維持するため、主の戒めを犯している。

マルコによる福音書 第7章6～9節 この民は、口さきではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。

12 — 行いのない信仰はなんの役に立つか。

ヤコブの手紙 第2章14～26節 靈魂のないからだが生んだものであると同様に、行いのない信仰も死んだものなのである。

13 — 心はよろずの物よりも偽るものである。

エレミヤ書 第17章9・10節 人の心は神のみぞ知る。

14 — だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない

マタイによる福音書 第6章24節 神と世には。

ヨハネの第一の手紙 第5章19節 全世界は悪しき者の配下にある。

15 — もし盲人が盲人を手引きするなら、ふたりとも穴に落ち込むであろう。

マタイによる福音書 第15章14節 神の教えから逸脱しているすべての者は、盲人である。

16 — 世を友とするのは、神への敵対である。

ヤコブの手紙 第4章4・5節

17 — 世と世にあるものごとを、愛してはいけない。

ヨハネの第一の手紙 第2章15～17節 世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる。

18 — あらゆる貪欲に対してよくよく警戒しなさい。あなたの魂は今夜のうちにも取り去られるであろう。

ルカによる福音書 第12章15～21節

伝道の書 第5章12～16節 彼は母の胎から出てきたように帰っていく。彼はその労苦によって得た何物をもその手に携え行くことができない。

19 — 人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。

マルコによる福音書 第8章34～38節 また、人はどんな代価を払って、その命を買い戻すことができようか。

20 — 死人を葬ることは死人に任せ、主イエスに従ってきなさい。

ルカによる福音書 第9章57～62節 罪を犯した死人はそのまま葬れ。

21 — 人々は食ひ、飲み、めとり、とつぎなどをするが、主イエスがこられた事に気がつかず驚くだろう。

マタイによる福音書 第24章29～44節 ちょうどノアの時のようであろう。

ルカによる福音書 第17章20～37節

22 — 狭き門と広き門

マタイによる福音書 第7章13～14節 神の教えと世の贅沢

23 — 肉の思いは死であるが、霊の思いは、いのちと平安である。

ローマ人への手紙 第8章5～9節

ガラテヤ人への手紙 第5章16～21節 敵意、怒り、ねたみ、泥酔、宴楽およびそのたぐいのものを行う者は、神の国をつくことがない。

24 — イエスは言われた、「わたしは平和ではなく、つるぎを投げ込むためにきたのである。」

マタイによる福音書 第10章33～39節 つるぎは、正義と公平を審判する神の御言葉である。

25 — かせのような女は、死よりも苦い者であることを見いだした。

伝道の書 第7章26節 わたしは、その心が、わなと網のような女は、死よりも苦い者であることを見いだした。

箴言 第6章20～34節 遊女は一塊のパンのために雇われる。

箴言 第7章6～27節 その家は陰府へ行く道であって、死のへやへ下って行く。

26 — 自分を愛する者がいるであろう。

テモテへの第二の手紙 第3章1～7節

レビ記 第18章22節 あなたは女と寝るように男と寝てはならない。

レビ記 第20章13節

27 — 女は、その自然の関係を不自然なものに代えた(エイズ)。

ローマ人への手紙 第1章23～32節 特に26節と27節を読むこと。

28 — 肉の働きと御霊の実

ガラテヤ人への手紙 第5章16～21節 肉の欲するところは御霊に反し、また御霊の欲するところは肉に反し、その結果、あなたがたは自分でしようと思ふことを、することができないようになる。

29 — 死ぬ者について

ヨブ記 第7章6～10節 彼は再びその家に帰らず、彼の所も、もはや彼を認めない。

ヨブ記 第14章7～12節 人は伏して寝、また起きず、その眠りからさまされない。

伝道の書 第9章4～6節 生きている者は死ぬべき事を知っている。しかし死者は何事をも知らない。(彼らはもはや日の下に行われるすべての事に、永久にかかわることがない。)

30 — わたしたちのわざは、わたしたちについてくる。

ヨハネの黙示録 第14章12・13節 それが善であろうと悪であろうと。

31 — 殺された人々の靈魂は、神の祭壇の下で守られている。

ヨハネの黙示録 第6章9～11節 神の言のゆえに殺された。

32 — すべての聖徒の祈は、御座の前の金の祭壇の上にささげられる。

ヨハネの黙示録 第8章3・4節

33 — 天では戦いが起こり、全世界を惑わす悪魔とその使たちも、もろともに地に投げ落とされた。

ヨハネの黙示録 第12章7～12節 しかし、地と海よ、おまえたちはわざわいである。悪魔が、自分の時が短いを知り、激しい怒りをもって、おまえたちのところに下ってきたからである。

34 — 地獄について

マルコによる福音書 第9章42～48節 地獄では、火が消えることがなく、投げ込まれた魂も死ぬことはない。

35 — 最後の審判 — このいのちの書に名がしるされていない者はみな、火の池に投げ込まれる。

ヨハネの黙示録 第20章11～15節

ローマ人への手紙 第2章16節 神が人々の隠れた事から(思考)をさばかれる日。

36 — イエスは言われた、「わたしがきたのは、この世をさばくためではなく、この世を救うためである。わたしの語ったその言葉が、終りの日にその人をさばくであろう。」

ヨハネによる福音書 第12章46～48節 (48節はマルコによる福音書 第16章16節を参照せよ。)

37 — 洪水によって死んだ者。

創世記 第7章17～24節

38 — 虹の意味

創世記 第9章8～17節 神はノアと契約を立てた。わたしは雲の中に、にじを置く。これがわたしと地との間の契約のしるしとなる。

39 — 悪魔は神のようになりたかったのである。

イザヤ書 第14章9～16節 神はその栄光を誰とも分け合わない。

エゼキエル書 第28章13～19節 あなたは油注がれた守護のケルブであった。あなたは自分の美しさと犯した多くの罪のために心を高ぶらせた。

40 — 主の大きい日は近い。

ゼパニア書 第1章14～18節 彼らの銀も金も、主の怒りの日には彼らを救うことができない。

41 — 主は地の上に人を造ったのを悔やまれた。

創世記 第6章5～7節 主は言った、「わたしが創造した人を地のおもてからぬぐい去ろう。わたしは、これらを造ったことを悔いる。」

42 — 地と天を造られた時、まだ地に雨は降っていないかった。

創世紀 第2章4~7節 しかし地から泉がわきあがって土の全面を潤していた。

43 — 一人は取り去られ、他の一人は残されるであろう。

ルカによる福音書 第17章30~37節 例：寝床にふたり、屋上にふたり。

44 — 主イエスは、羊からやぎを分ける。

マタイによる福音書 第25章31~46節

45 — 天体は揺り動かされるであろう。

マタイによる福音書 第24章29~44節 日、月、そして星

46 — 主の来臨

ペテロの第二の手紙 第3章1~12節 主の日は盗人のように襲って来る。そして、多くが驚くであろう。

47 — またたく間に、終りのラッパが響いて死人は蘇えられ、生き残っている者は変えられるのである。

コリント人への第一の手紙 第15章50~55節 すべての人は、眠るのではなく変えられるのである。

テサロニケ人への第一の手紙 第4章13~18節 雲に包まれて引き上げられ空中で主に会い、こうしていつも主と共にいるであろう。

48 — すべての人が救われるわけではない。神によって選ばれた者だけが救われるのである。

ローマ人への手紙 第9章14~16節 ゆえに、それは人間の意思や努力によるのではなく、ただ神のあわれみによるのである。

49 — 主は言われた、「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。」

ヨハネによる福音書 第15章16節 誰ひとりとして主イエスを選ぶのではない。わたしたちを選ぶのは主イエスである。

50 — 神は、信じるものを救うこととされたのである。

コリント人への第一の手紙 第1章19~21節

51 — 麦と毒麦の譬

マタイによる福音書 第13章24~30節と36~43節

52 — 肉と血とは神の国をつぐことがない。

コリント人への第一の手紙 第15章50節

伝道の書 第12章7節 ちりは、もとのように土に帰り、霊はこれを授けた神に帰る。

53 — 正しくない者が神の国を継ぐことができない。

コリント人への第一の手紙 第6章9~11節

54 — 地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者は目をさますでしょう。そのうち永遠の生命にいたる者もあり、また恥と、限りなく恥辱をうける者もあるでしょう。

ダニエル書 第12章2・3節

55 — 善をおこなった人々は、生命を受けるためによみがえり、悪をおこなった人々は、さばきを受けるためによみがえって、それぞれ出てくる時が来るであろう。

ヨハネによる福音書 第5章24～29節

56 — イエスは律法を持ってこられた。どこに記されているだろうか。

マタイによる福音書 第7章28節 群衆はその教にひどく驚いた。

マルコによる福音書 第11章17～18節 群衆がみなその教に感動していた。

ルカによる福音書 第4章32節 その言葉に権威があったので、彼らはその教に驚いた。

ヨハネによる福音書 第7章13～18節 わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかた(神)の教である。

ヨハネの第二の手紙 第1章9～11節 その教にとどまっていない者は、父を持たず、また御子をも持っていないのである。

ローマ人への手紙 第16章16～18節 主キリストに仕えない人々は、甘言と美辞とをもって、純朴な人々の心を欺く者どもだからである。

57 — 多くの教が存在する。だが、より知られているのは以下である。

1. 主によって使徒に残された教：使徒行伝 第15章7～9節
2. 人間の教：マタイによる福音書 第7～9節/マルコによる福音書 第7章6～9節
3. 悪魔の教：テモテの第一の手紙 第4章1節

58 — 悪魔の教はより人々を騙したものである。

コリント人への第一の手紙 第10章19～21節 わたしは、あなたがたが悪霊の仲間になることを望まない。

テサロニケ人への第二の手紙 第2章1～11節 主の意思にまったく反するものだからである。

59 — 主ではなく、悪霊に礼拝すること。

コリント人への第一の手紙 第10章14～21節 主の杯と悪霊どもの杯とを、同時に飲むことはできない。

60 — 同じ祈りを繰り返さないこと。

マタイによる福音書 第6章5～8節 くどくどと祈るな。

61 — 祈りについて

ピリピ人への手紙 第2章9～10節 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかかめるであろう。

ローマ人への手紙 第14章11～12節 すべてのひざは、わたしに対してかがみ、すべての舌は、神にさんびをささげるであろう。

イザヤ書 第45章22～23節 すべてのひざはわが前にかがむ、と神はご自分に誓われた。

使徒行伝 第10章20～26節 神と話す時はひざまずき、人間と話す時は立つ。

ルカによる福音書 第22章39～46節 イエスはひざまずいて祈った。

使徒行伝 第20章33～36節 使徒一同は共にひざまずいて祈り、きよい接吻で互にあいさつをかわした。

詩篇 第95章6節 われらの造り主、主のみ前にひざまずこう。

箴言 第8章17節 わたしは、わたしを愛する者を愛する、わたしをせつに求める者は、わたしに出会う。

マタイによる福音書 第4章8～10節 サタンでさえ、イエスに、ひれ伏してわたしを拝めと言った。

マタイによる福音書 第6章5節 また祈る時には、偽善者たちのようにするな。彼らは人に見せようとして、会堂や大通りのつじに立って祈ることを好む。

エペソ人への手紙 第3章14節 パウロのエペソ人への祈り。ひざをかかめて祈った。

## 62 — ひざまずいて祈る

歴代志下 第6章13節 ソロモンは、祈るためにひざをかかめた。

エズラ記 第9章5節 エズラは、ひざをかかめて祈った。

ダニエル書 第6章10節 ダニエルは、ひざをかかめて祈った。

列王紀上 第8章54節 ソロモンは、ひざまずいて祈った。

列王紀下 第4章37節 シュネムの女は、地に身をかがめ祈った。

使徒行伝 第21章5節 パウロは、ひざまずいて祈った。

使徒行伝 第9章40節 ペテロは、ひざまずいて祈った。

使徒行伝 第7章60節 ステパノは、ひざまずいて祈った。

ルカによる福音書 第22章39～46節 イエスは、ひざまずいて祈った。

## 63 — おおいについて

コリント人への第一の手紙 第11章2～16節 教会での姉妹たちのあるべき姿。

もし髪がおおいであるならば、よく議論されているように、神は、女はかしらにおおいをかけ、男は坊主で生まれると書に残さなかったであろう。男がかしらにものをかぶったり、長い髪を持つことは神への侮辱であると書が証言している。



道路や公の場で、女がかしらにおおいをかけることが困難な場合などの緊急事態において、神のご慈悲によって、髪はおおいの代わりとなる。しかし、決して当たり前となつてはならない。

## 64 — おおいと長い髪

創世記 第24章 64～65節 リベカは、被衣で身をおおった。

ルカによる福音書 第7章 38節 罪の女が、涙でイエスの足をぬらし、自分の髪の毛でぬぐった。

## 65 — 聖餐式について

出エジプト記 第13章 10節 聖餐式は、年に一度行われていた復活祭(イースター)の代わりである。

コリント人への第一の手紙 第11章 17～30節 主の晩餐

コリント人への第一の手紙 第11章 25～26節 聖書のどこにも、それは主イエスの生誕のためとは書かれていない。しかし、その死は忘れてはならない。

へブル人への手紙 第10章 3節 年ごとに、いけにえによって罪の思い出がよみがえってくるのである。

誰も毎月生まれたり死んだりしないように、主も肉体的に一度生まれ死んだが、その日の事を毎年聖餐式にて思い出される。

## 66 — わたしが一きれの食物をひたして与える者が、わたしを裏切ろうとしている。

ヨハネによる福音書 第13章 21～30節

## 67 — 神の平安の挨拶

テモテへの第一の手紙 第1章 2節

テトスへの手紙 第1章 4節

コロサイ人への手紙 第1章 2節

## 68 — きよい接吻(頬)による挨拶

旧約聖書に多く書かれているように、兄弟姉妹は頬での接吻によるあいさつをかわしていた。

創世記 第27章 26～27節、創世記 第45章 15節、出エジプト記 第4章 27節、出エジプト記 第18章 7節、サムエル記上 第20章 41節、列王紀上 第19章 20節、ルツ記 第1章 14節、箴言 第24章 26節

きよい接吻(頬)とは何を表しているのか?(辞典引用：平安と友情のしるしを象徴する。)

詩篇 第2章 12節 道で滅びないために、憤りが燃えないために、神の子に口付けせよ。

詩篇 第85章 10～13節 初めて互にきよい接吻(頬)で挨拶をかわしたのは、神とそ

の子イエスであった。

マタイによる福音書 第26章14～16節 裏切りの代償

マタイによる福音書 第26章47～50節 合図として、わたしはあなたに接吻する。

ルカによる福音書 第7章36～45節 イエスご自分から接吻を望まれた。

使徒行伝 第20章33～37節 みんなの者は、パウロの首を抱いて挨拶をかわした(接吻)。

ローマ人への手紙 第16章16～18節 きよい接吻をもって、互にあいさつをかわしなさい。しかし、甘言と美辞とをもって、純朴な人々の心を欺く者どもがいる。

コリント人への第二の手紙 第13章12節

テサロニケ人への第一の手紙 第5章26節

エペソ人への手紙 第5章22～23節 キリストは教会のかしらである。

ペテロの第一の手紙 第5章14節 ペテロはこの教を世界中に向けてかいたのである。

## 69 — きよい接吻(頬)と神の平安

ヨハネによる福音書 第14章27節 わたしは平安をあなたがたに残して行く。(ピリ

ピン人への手紙 第4章7節とコロサイ人への手紙 第3章15節を参照せよ)。平安はイエスのではなく、平安は神のである。

ローマ人への手紙 第1章7節

コリント人への第一の手紙 第1章3節

コリント人への第二の手紙 第1章2節

ガラテヤ人への手紙 第1章3節

エペソ人への手紙 第1章2節 神の平安

テモテへの第一の手紙 第1章2節

## 70 — 主イエスは言われた、「平安をもたらしにきたのではない。」

マタイによる福音書 第10章34～38節 イエスは御言葉をもたらしたのである。

## 71 — あいさつする者は、その行いにあずかることになる。

ヨハネの第二の手紙 第1章8～11節 キリストの教にとどまっていけない者が来たら、あいさつをしてはいけない。そのような人にあいさつする者は、その悪い行いにあずかることになるからである。

## 72 — 洗礼式について

マタイによる福音書 第9章10～13節 わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである。

使徒行伝 第3章19節 自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心

に立ちかえりなさい。

イザヤ書 第1章16～20節 たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。

イザヤ書 第43章25節 わたしはあなたのとがを消し、あなたの罪を心にとめない。

イザヤ書 第55章1～2節 金がなくても水にきたれ。救いは無償である。

エレミヤ書 第31章33～35節 わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない。

マタイによる福音書 第3章13～17節 イエスのバプテスマ

マルコによる福音書 第16章15～16節 信じてバプテスマを受ける者は救われる。

しかし、不信仰の者は罪に定められる。

ヨハネによる福音書 第3章1～8節 だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない。

エペソ人への手紙 第4章5節 バプテスマは一つ。

ヘブル人への手紙 第8章11～13節 わたしは、彼らの不義をあわれみ、もはや、彼らの罪を思い出すことはしない。

ヘブル人への手紙 第5章11～14節 幼な子にバプテスマを授けてはならない。

マタイによる福音書 第28章16～20節 父の名によるバプテスマ

使徒行伝 第2章37～39節 最初の悔い改め

マタイによる福音書 第18章1～5節 心をいれかえて幼な子のようにでありなさい。

使徒行伝 第8章26～39節 ピリポは宦官にバプテスマを授けた。

使徒行伝 第9章1～18節 サウロのバプテスマ

使徒行伝 第19章1～6節 ヨハネの名によるバプテスマを受けた者は、再度バプテスマを受けなければならない。

コリント人への第一の手紙 第6章9～11節 男娼となる者、盗む者、酒に酔う者は神の国をつぐことはないのである。

コリント人への第二の手紙 第5章17節 だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。

ヘブル人への手紙 第5章11～14節 すべて乳を飲んでる者は、義の言葉を味わうことができない。

### 73 一 主イエスの名による救いと罪の赦しのための洗礼式

ルカによる福音書 第3章21～22節 イエスのバプテスマ

ヨハネによる福音書 第20章31節 イエスの名によって命を得るためである。

使徒行伝 第4章10～12節 主イエス・キリストによる以外に救はない。

使徒行伝 第19章1～6節 ヨハネの名による悔改のバプテスマを受けた魂は、主イエスの名による罪のゆるしのバプテスマを受けなければならなかった。

使徒行伝 第10章42～43節 その名によって罪のゆるしが受けられる。

コロサイ人への手紙 第3章17節 あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなすのである。

マタイによる福音書 第3章1～12節 バプテスマのヨハネは言った、「わたしは悔い改めのために、水でバプテスマを授けている。」

マタイによる福音書 第3章13～17節 イエスのバプテスマ

ルカによる福音書 第24章47節 その名によって悔いあらためを宣べ伝えられる。

ヨハネによる福音書 第3章1～13節 イエスはニコデモに新しく生まれ変わることについて教えた。

使徒行伝 第2章37～39節 悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。

使徒行伝 第10章47～48 誰がこぼみ得ようか。こう言って、イエス・キリストにの名によってバプテスマを受けさせた。

ローマ人への手紙 第6章3～10節 神に生きるために罪に死ぬのである。

74 — 主イエスは、その勤めを全うするために律法を履行した。

民数記 第4章35～39と47節 三十歳以上五十歳以下で、勤めについたすべての者はバプテスマを受けなければならなかった。

ルカによる福音書 第3章21～23節 主は、およそ三十歳でバプテスマを受けられた。

75 — 洗礼後の罪について

ヤコブの手紙 第1章12～16節 罪が熟して死を生み出す。

76 — 死に至る罪がある。これについては、願いを求めよ、とは言わない。

ヨハネの第一の手紙 第5章16～19節

77 — わが義人は、信仰によって生きる。もし信仰を捨てるなら、わたしのたましいはこれを喜ばない。

へブル人への手紙 第10章37～39節

へブル人への手紙 第10章21～27節 ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないようにしようではないか。

78 — 罪を犯した魂は必ず死ぬ。

テモテへの第一の手紙 第5章24節 ある人の罪は明白であって、すぐ裁判にかけられるが、ほかの人の罪は、あとになってわかってくる。

ローマ人への手紙 第2章16節 神がキリスト・イエスによって人々の隠れた事から  
をさばかれる日。

ヤコブの手紙 第5章19～20章 たましいを救い出す人は、多くの罪をおおうもので  
ある。

エゼキエル書 第18章4節 罪を犯した魂は必ず死ぬ。

エゼキエル書 第18章20～31節 子は父の悪を負わない。父は子の悪を負わない。

エゼキエル書 第33章11～20節 義人がその義を離れて、罪を犯すならば、彼の全  
ての義は覚えられない。彼は自ら犯した罪のために死ぬ。

詩篇 第101章6～7節 わたしは国のうちの忠信な者に好意を寄せ、欺くことをす  
る者はわが家のうちに住むことができません。

**79 — 罪を犯した者は、神が書きしるされたふみから、その名を消し去るであろう。**

出エジプト記 第32章30～33節 主はモーセに言われた、「すべてわたしに罪を犯  
した者は、これをわたしのふみから消し去るであろう。」

## 80 — 牧師

ピリピ人への手紙 第3章2節 あの犬どもを警戒しなさい。悪い働き人たちを警戒  
しなさい。(イザヤ書 第56章10～11節を参照せよ。)

イザヤ書 第19章9～10節 最後の審判の時、すべて雇われて働く者は嘆き悲しむ。

イザヤ書 第1章23節 あなたのつかさたちはそむいて、盗びとの仲間となり、贈り  
物を追い求める。

エゼキエル書 第34章1～5節 あなたがたは脂肪を食べ、羊の毛織物をまとう。

ヨハネの黙示録 第22章15節 犬ども、また、偽りを好みかつこれを行う者はみ  
な、外に出されている。

マタイによる福音書 第24章1～19節 身重の女と乳飲み子をもつ女は不幸である。  
(嘘を吐く者と嘘に生きる者は不幸である。)

エレミヤ書 第23章1～4節と11～12節 我が牧場の羊を滅ぼし散らす牧者はわ  
ざわいである。

コリント人への第一の手紙 第9章14節 福音によって生活するのであり、福音によ  
って食べるのではない。(マタイによる福音書 第10章5～10節とルカによる福音書  
第10章2～8節を参照せよ。)

コリント人への第二の手紙 第12章12～18節 パウロは福音を宣べ伝えるためにな  
にも請求しなかった。

テサロニケ人への第一の手紙 第4章11～12節 自分の仕事に身をいれ、手ずから働  
きなさい。

テサロニケ人への第二の手紙 第3章8～10節 働こうとしない者は、食べることもしてはならない。

イザヤ書 第56章10～11節 彼らはまた悟ることのできない牧者で、皆おのが道にむかいゆき、おのおのみな、おのれの利を求め。

マタイによる福音書 第7章6節 聖なるものを犬にやるな。

ヨハネによる福音書 第10章1～16節 わたしにはまた、この囲いにいない他の羊がある。

ペテロへの第二の手紙 第2章1～22節 真理の道がそしりを受けるに至るのである。

ヘブル人への手紙 第13章17～20節 指導者の、称号ではなく、賜物を持つ者たちの言うことを聞き入れなさい。

エレミヤ書 第25章34～38節 牧者よ、嘆き叫べ、灰の中にまるべ。

エペソ人への手紙 第4章4～11節 主は高いところにのぼり、人々に牧師の賜物を分け与えたが、人間は地上の勉強における知恵と称号を求めた。

コリント人への第一の手紙 第3章8～9節 この世の知恵は、神の前では愚かなものだからである。

箴言 第9章10節 主を恐れることは知恵のもとである。

ヨブ記 第28章28節 見よ、主を恐れることは知恵である、悪を離れることは悟りである。

81 — 寡婦たちの家を食い倒す者は、もったきびしいさばきを受けるであろう。(イザヤ書 第1章17節 寡婦の訴えを弁護せよ。)

マルコによる福音書 第12章38～40節 見えのために長い祈りをする。

ルカによる福音書 第20章45～47節 彼らはもったきびしいさばきを受けるであろう。

82 — 偽りの預言者たちについて

ミカ書 第3章5～11節 聖職者は利益のために教え、預言者はお金のために占う。

83 — 真理の道がそしりを受けるであろう。

ペテロへの第二の手紙 第2章1～4節

エペソ人への手紙 第4章4～11節 主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ。

84 — ただで与えよ。

イザヤ書 第55章1～3節 かわいている者は、金を出さず、水にきたれ。

マタイによる福音書 第10章6～8節 ただで受けたのだから、ただで与えるがよい。

85 — 教会での寄付(定まった金額はなく、ボランティアによるもの)

コリント人への第一の手紙 第16章1～2節 収入に応じて

コリント人への第二の手紙 第8章15～17節 多く得た者も余ることがなく、少しし

か得なかつた者も足りないことはなかつた。

## 86 — 福音を宣べ伝える者の報い

イザヤ書 第40章9～11節 いのちの冠

箴言 第11章30節 正しい者の結ぶ実は命の木である、不法な者は人の命をとる。

ダニエル書 第12章3節を参照せよ。(多くの人を義に導く者は、星のようになって永遠にいたるでしょう。) また、ヤコブの手紙 第5章20節も参照せよ。(罪人を迷いの道から引きもどす人は、そのたましいを死から救い出すであろう。)

## 87 — 十分の一税は旧約聖書の律法よりつくられた。

創世記 第14章18～20節 アブラハムは十分の一税を納めた。イサクに割礼を施し、燔祭として捧げた。

マタイによる福音書 第11章13節 律法が預言したのは、ヨハネの時までである。

マタイによる福音書 第11章25～30節 わたしのくびきは負いやしく、わたしの荷は軽いからである。

マタイによる福音書 第17章24～27節 イエスは税や貢を納めた。

マタイによる福音書 第23章23節 偽善な律法学者どもよ、あなたがたはわざわざである。はっか、いのんど、クミンなどの薬味の十分の一を宮に納めておりながら、律法の中でもっとも重要な、公平とあわれみと忠実とを見がしている。

ルカによる福音書 第11章44～46節 あなたがた律法学者も、わざわざである。負いきれない重荷を人にお任せながら、自分ではその荷に指一本でも触れようとしない。

ルカによる福音書 第16章16～17節 律法と預言者とはヨハネの時までのものである。

ヨハネによる福音書 第1章17節 律法と預言者とはヨハネの時までのものであるが、めぐみは、イエス・キリストをとおしてきたのである。

ヘブル人への手紙 第10章9節 新約聖書を立てるために、旧約聖書を廃止されたのである。

## 88 — レビでさえも、アブラハムを通じて十分の一税を納めた。

ヘブル人への手紙 第7章7～9節 主イエスはレビの後に來られたため、十分の一税はもう納めなくていい。

## 89 — 十分の一税は廃止された。

ヘブル人への手紙 第7章17～19節 無効とは、キャンセル・廃止を意味する。

## 90 — 十分の一税は律法の一部であった。

ガラテヤ人への手紙 第3章10～13節 律法によっては、神のみまえに義とされる者はひとりもなく、律法の行いによる者は、皆のろいの下にある。

91 — 婦人たちは、教会で啓示を語ってはいけない。

テモテへの第一の手紙 第2章9～14節 女が教えたり、男の上に立ったりすることを、わたしは許さない。

コリント人への第一の手紙 第14章34～38節 コリントの教会へ向けて書いたのはパウロであり、それを命じたのは神である。

ピリピ人への手紙 第4章3節 女たちは、福音のために使徒パウロに協力していたが、祭壇で啓示を語ってはいけない。主イエスは使徒として女を誰ひとりとして置かなかった。

92 — 教会での長老たち

使徒行伝 第14章23節 教会ごとに長老たちを任命した。

イザヤ書 第9章15～16節 その頭とは、長老と尊き人、その尾とは、偽りを教える預言者である。

使徒行伝 第20章17～38節

テモテへの第一の手紙 第3章全て

ペテロの第一の手紙 第5章1～4節

ローマ言語で、主宰のことを司教、つまり長老のことである。

また、ギリシャ語で主宰のことを司祭、つまり長老のことを指す。

93 — 教会での協力者

ローマ人への手紙 第16章21節

コリント人への第一の手紙 第3章9節

コロサイ人への手紙 第4章11節

ピレモンへの手紙 第1章24節



教会の協力者に給料はない。  
給料は、いのちの冠である。

94 — わたしはこの岩の上に教会を建てよう。(岩は主イエスであり、ペテロではない。)

マタイによる福音書 第16章16～20節 イエスが岩について言われた時、ご自分のことを指していた。

エペソ人への手紙 第2章19～22節 キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。

使徒行伝 第4章10～12節 イエスこそは、あなたがた家造りらに捨てられたが、隅のかしら石となった石なのである。

95 — 結婚について

マタイによる福音書 第18章18節 あなたがたが地上でつなぐことは、天でも皆つなされる。

マタイによる福音書 第19章3～5節 神はからだを一体にするが、魂は一体にしない。



マタイによる福音書 第22章25～30節 復活の時には、彼らはめとったり、とついたりすることはない。彼らは天にいる御使のようなものである。

コリント人への第一の手紙 第7章4節 妻は自分のからだを自由にすることはできない。それができるのは、夫である。夫も同様である。

コリント人への第一の手紙 第7章39節 妻は、その夫につながれている。

ローマ人への手紙 第7章1～3節 夫のある女は、夫は生きている間は、律法によって彼につながれている。

神は、結婚で体のみを一つにする。もし、魂も一つにされたならば、夫が死んだ時、妻も同様に死ぬことになる。そうすると、この世に未亡人はいないだろう。その意味では、魂の救いは個々ではなく、夫婦(ふたり)のものになる。教会は、魂のための場であり、身体のための場ではない。

## 96 — 不信者と結婚

コリント人への第二の手紙 第6章13～18節 不信者と、つり合わないくびきと共にするな。

## 97 — 姦淫について

コリント人への第一の手紙 第7章1～4節 不品行に陥ることのないために、男子はそれぞれ自分の妻を持ち、婦人もそれぞれ自分の夫を持つがよい。

## 98 — 主イエスはマリアを褒めた女を譴責した。

ルカによる福音書 第11章27～28節 いや、めぐまれているのは、むしろ、神の言を聞いてそれを守る人たちである。

## 99 — 教会での聖職者

テモテへの第一の手紙 第3章1～13節 監督は、非難のない人で、一人の妻の夫でなければならない。

テモテへの第一の手紙 第4章1～4節 偽り者どもは、結婚を禁じたり、絶つこと(結婚によってひとつになった男女の関係)を命じたりする。しかし、神の造られたものは、みな良いものであって、何ひとつ捨ててべきものはない。

## 100 — 行進

イザヤ書 第45章15～22節 木造をにない、救うことのできない神に祈る者は無知である。

ルカによる福音書 第1章26～31節 イエスの生誕

## 101 — 木にかけられる者は、すべてのろわれる。

ガラテヤ人への手紙 第3章10～13節 十字架は死を象徴する。

## 102 — 聖餐食のパンでは、罪を除き去ることはできない。

へブル人への手紙 第 10 章 10～13 節 同じようないけにえでは、決して罪を除き去ることはできない。

**103** — 主イエスの母マリアには、他の息子・娘もいた。

詩篇 第 69 章 8 節 わたしはわが兄弟には、知らぬ者となり、わが母の子らには、除け者となりました。

マタイによる福音書 第 12 章 46～50 節 イエスの家族

マタイによる福音書 第 13 章 53～58 節 イエスの兄弟たちは、ヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダであり、聖書ではその名前が語られない姉妹もいた。

マルコによる福音書 第 6 章 1～4 節

ヨハネによる福音書 第 7 章 1～5 節 兄弟たちもイエスを信じていなかったからである。

**104** — バビロンについて

ヨハネの黙示録 第 18 章 1～6 節 彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにせよ。

エレミヤ書 第 51 章 6～9 節

エレミヤ書 第 51 章 47～48 節 それゆえ見よ、わたしがバビロンの偶像を罰する日が来る。

ヨハネの黙示録 第 18 章 21～24 節 預言者や聖徒の血、さらに、地上で殺されたすべての者の血が、この都で流されたからである。

**105** — 偶像について

ヨハネによる福音書 第 3 章 12～13 節 だれも天に上った者はない。主イエスのほかには。

テモテへの第一の手紙 第 2 章 4～5 節 神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。

**106** — だれも聖者になれない。義人はかろうじて救われる。

ペテロの第一の手紙 第 4 章 17～18 節 また義人でさえ、かろうじて救われるのだとすれば、不信なる者や罪人は、どうなるであろうか。

**107** — 偶像に関する他の関連事項

詩篇 第 97 章 1～7 節 すべて刻んだ像を拜む者、その前にひれ伏す者は、はずかしめをうける。

詩篇 第 115 章 1～11 節 これを造る者と、これに信頼する者とはみな、これと等しい者になる。

イザヤ書 第 44 章 8～20 節 見よ、その仲間皆恥を受ける。

イザヤ書 第 45 章 20～22 節 木造をにない、救うことのできない神に祈る者は無知

である。

エレミヤ書 第10章1～15節 銀と金は工人と金細工人の工作である。すみれ色と紫色の着物の像である。(第9章を参照せよ。) これは何の像であろうか。

エレミヤ書 第51章15～18節 その偶像是偽り物で、そのうちに息がないからだ。

### 108 — 偶像に関する他の関連事項

申命記 第5章8～9節 あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水の中にあるものの、どのような形をも造ってはならない。

申命記 第27章15節 像を造る者はのろわれる。

詩篇 第135章15～18節 それは口があっても語るができない。目があっても見ることができない。

イザヤ書 第2章18～20節

イザヤ書 第44章9～19節 見よ、その仲間には皆恥を受ける。

イザヤ書 第45章5、6、9、14、16、18、20節 神は光をつくり、また暗きを創造し、繁栄をつくり、またわざわいを創造する。

ハバクク書 第2章18～19節 刻める像、鑄像および偽りを教える者。

使徒行伝 第15章20節 偶像に供えて汚れた物。

ガラテヤ人への手紙 第5章19～21節 偶像礼拝、まじない、泥酔を行う者は、神の国をつぐことがない。

ヨハネの第一の手紙 第5章21節

109 — あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水の中にあるものの、どのような形をも造ってはならない。

申命記 第5章7～11節

110 — すべて市場で売られている物は、いちいち良心に問うことをしないで、食べるがよい。

コリント人への第一の手紙 第10章20～25節

111 — 締め殺された肉(血流なく)虐殺された動物)

創世記 第9章1～6節 肉を、その命である血のまま、食べてはならない。

申命記 第12章23～24節 その血を食べないようにしなければならぬ。血は命だからである。

使徒行伝 第15章20～29節 それは、偶像に供えたものと、血とを避けるということである。

使徒行伝 第21章25節 絞め殺したものと、血と、不品行とを慎むように。

112 — 呪文を唱える者、魔法使い、かんなぎ、占いをする者、易者、卜者(神は許されない)。

申命記 第18章9～14節

113 — 獣と数字666について

ヨハネの黙示録 第13章13～18節 ここに、知恵が必要である。思慮深い者は、獣の数字を解くがよい。

ヨハネの黙示録 第13章4～10節 彼は、神を汚した。

ヨハネの黙示録 第17章9～11節

114 — このいのちの書に名がしるされていない者はみな、火の池に投げ込まれた。

ヨハネの黙示録 第20章11～15節

115 — 安息日について

哀歌 第2章6節 主は祭と安息日とをシオンに忘れさせた。

マタイによる福音書 第12章1～8節 人の子は安息日の主である。

マタイによる福音書 第27章24～25節 その血の責任は、われわれとわれわれの子孫の上にかかってもよい。

ルカによる福音書 第14章1～5節 自分の牛が井戸に落ち込んだなら、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者がいるだろうか。

ヨハネによる福音書 第7章1～7節 わたしの父は働いた。そして、わたしもまた今も働いている。

コロサイ人への手紙 第2章16～17節 食物と飲み物につき、あるいは祭や新月や安息日などについて、誰にも批評されてはならない。

ガラテヤ人への手紙 第3章10～13節 律法によっては、神のみまえに義とされる者はひとりもないが、律法の行いによる者は、皆のろい下にある。

へブル人への手紙 第4章1～13節 神の民に安息日はあるが、特定された日はない。最後の日に神と共に安息がある。

マルコによる福音書 第2章27～28節 人の子は、安息日にもまた主なのである。

ローマ人への手紙 第13章8～10節 } 主イエス、神の御霊、そして、使徒でさえも、

ガラテヤ人への手紙 第5章14節 } 安息日について唱えなかった。

ヤコブの手紙 第2章10節 使徒ヤコブは言った、「律法をことごとく守ったとしても、その一つの点にでも落ち度があれば、全体を犯した事になるからである。」

コリント人への第二の手紙 第5章17節 だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。

ガラテヤ人への手紙 第4章9～11節 パウロは、日や月や季節や年などを守ろうとする者を譴責した。

ガラテヤ人への手紙 第3章23～27節 律法は、わたしたちをキリストに連れて行く養育掛となったのである。

ローマ人への手紙 第14章5～6節 使徒らは、どの日も同じだと考えた。7日目を守らずに。

ヨハネによる福音書 第11章9～10節 イエスを信じるすべての者の正義のため、イエスは律法の終わりである。イエスとある者は、律法の一点につまづくことはない。キリストが導く光だからである。

ガラテヤ人への手紙 第2章19～21節 生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。

詩篇 第118章18～24節 わたしが主とあれば、彼はわたしをつまづかせないであろう。主が守れと言われる全ての教を守ろう。わたしは、主に休む。主が設けられた日だからである。わたしの喜び、わたしの安らぎである。啓示を語り、収入を得る労働者でさえ安息日を守っていない。むしろ、その日は、もっとも働く日である。

## 116 — 酒について

ガラテヤ人への手紙 第5章16～21節 } 以前も言ったように、  
コリント人への第一の手紙 第6章8～11節 } このようなことを行う者は、  
神の国をつくることができない。

箴言 第20章1節 酒は人をあざける者とし、これに迷わされる人は無知である。

箴言 第23章19～23節 酒にふける者と交わってはならない。

箴言 第23章29～33節 あなたの目は怪しいものを見、強い欲望にかられる。

イザヤ書 第5章11、22、23節 わざわざいなるかな、彼らは朝早く起きて、濃い酒を追い求める。

イザヤ書 第28章6～11節 祭司と預言者とは濃き酒のゆえによろめく。

エペソ人への手紙 第5章18節 酒に酔ってはいけない。それは乱行のもとである。

むしろ御霊に満たされなさい。

ルカによる福音書 第1章12と16節 ヨハネは、ぶどう酒や強い酒をいっさい飲まず、母の胎内にいる時からすでに精霊に満たされている。

箴言 第31章4～8節 強い酒は、滅びようとしている者のためにある。

## 117 — 身を傷つけること(入れ墨)について

レビ記 第19章28節 死人のために身を傷つけてはならない。また身に入墨をしてはならない。わたしは主である。

レビ記 第21章5節 彼らは頭の頂をそってはならない。ひげの両端を剃り落してはならない。また身に傷をつけてはならない。

コリント人への第一の手紙 第3章16～17節 あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っている。もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。

コリント人への第一の手紙 第6章19～20節 この世の流れは、神の象徴と神との類似点を失わせた。

118 — 財産について。ごく少数の者だけが、神の国にはいるであろう。

マルコによる福音書 第10章23～31節 財産のある者は、神より自分の財産を信じているからである。

ルカによる福音書 第12章13～2節 あなたの魂は今夜のうちにも取り去られるであろう。

119 — 家から家へと福音を宣べ伝える者たちについて。

テモテへの第二の手紙 第3章 信心深い様子をしながらその実を捨てる者となるであろう。

箴言 第15章24節 知恵ある人の道は上って命に至る、こうしてその人は下にある陰府を離れる。

120 — 家から家へと福音を宣べ伝える者たちについてのさらなる参照

箴言 第19章28節 ベリアル<sup>ベリヤル</sup>の証人である。(ベリアルとは何か辞書を引くように。)

ヨハネによる福音書 第14章1～5節 わたしの父の家には、すまいがたくさんある。あなたがたのために、場所を用意しに行くのである。

ピリピ人への手紙 第3章17～20節 わたしたちの国籍は天にある。

コロサイ人への手紙 第3章1～5節 あなたがたは上(天)にあるものを想うべきである。

コリント人への第二の手紙 第5章1～10節 わたしたちの住んでいる地上の幕屋がこわれると、神から建物をいただくであろう。すなわち、それは天にある。

ペテロへの第二の手紙 第3章 根も枝も残らないであろう。

ヨハネの黙示録 第12章9節 全世界を惑わすサタンは、地に投げ落とされ、その使たちも、もろともに投げ落とされた。

121 — 神に仕える者は命の年を延べられ、悪しき者の年は縮められる。

箴言 第10章27節 主を恐れることは人の命の日をおくする。

箴言 第3章1～5節 命の年を延べ、あなたに平安を増し加える。

箴言 第10章27節 悪しき者の年は縮められる。

122 — 女は男の着物を着てはならない。また男は女の着物を着てはならない。あ

あなたの神、主はそのようなことをする者を忌みきらわれるからである。

申命記 第22章5節 各国の慣習を遵守しながら

123 一 ききんをこの国に送る日が来る。

アモス書 第8章7～13節 それはパンや水のききんではない、主の言葉を聞くこと  
に対するききんである。